

第 48 回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1 日 時：平成 20 年 12 月 24 日 13 時 30 分～16 時 00 分

2 場 所：猿沢荘 3F わかくさ（奈良市池之町 3 番地）

3 出席者

委 員 6 名：池淵周一、岩本廣美、岡田伸子、谷幸三、前迫ゆり、和田萃
（五十音順、敬称略）

事務局 4 名：奈良県 徳元河川課長 ほか

4 議事要旨

- (1) 第 46 回奈良県河川整備委員会議事概要の確認
- (2) 第 47 回奈良県河川整備委員会（現地視察）の報告
- (3) 第 46、47 回奈良県河川整備委員会補足
- (4) 大和川水系河川整備計画布留飛鳥圏域の変更について
- (5) その他

5 議事内容（主な意見）

5. 1 第 46、47 回奈良県河川整備委員会補足について

- ・町並川では、最近3回の浸水被害があったということだが、それ以前の浸水被害は把握しているのか、大雨が降れば浸水することを承知の上で現在の場所に家が建てられたのか、経緯を把握していれば示してほしい。
また、流域の土地利用状況や人口動態、雨の降り方や流出形態等がどのように変わってきているのか、可能な限り調べてほしい。
- ・水収支がどのように成り立っているかは大切な情報である。川の水が農地や浄水場にどう配分され、それがどう利用され地下や河川に流れ込んでいるのか、水収支がわかれば議論しやすいのではないかと。できれば淀川水系でも示してほしい。
- ・動植物の文献調査については、植物だけを見ても、ハビタットがかなり混乱して羅列されている。整備計画に役立つよう、地域の状況が把握できるように整理を行う必要がある。
- ・動植物については、実際に整備する時点でその周辺の調査を行い、どういう動植物が生息しているのか、把握していく必要がある。
- ・水質は、BODで見ると従前に比べてこの川もきれいになっているが、大和川ではワースト 1 を脱却できず、奈良県では水質改善プロジェクトを掲げている。生活排水が汚濁原因となっていることや下水道整備率と接続率に乖離があるという状況等の中で、どのように取り組み、河川整備計画へはどのように記載するのか。

→大和川の水質改善に向けて、それぞれの役割分担のもと、どういう主体がどういう取り組みを行い、ワースト1脱却を目指すのか議論している段階であるが、下水道整備や、住民への啓発活動は主体的に行う必要があると考えており、整備計画にもそういったことをできるだけ記載できればと考えている。

- ・水質は、BODの値を下げることは重要な視点ではあるが、川の評価が良くなることで住民にとってどういうメリットがあり、どういういいことにつながるのか、また、住民の行動としてどうすれば悪くなり、どうすれば良くなるか等、市民の視点に立った情報が必要である。BODを下げることに一生懸命になっていてもあまり意味がない。大和川や淀川の良さなど、川らしくあるための施策が必要である。

- ・大和川では、大和川市民ネットワークがつくられており、大阪では色々なイベントが行われ、国土交通省にも力を入れてもらっている。奈良県もネットワークに入ってもらえるといいと思う。特に、平城遷都1300年に向け、秋篠川をきれいにする取り組みが進んでいるので、奈良県としてもできるだけ協力してほしい。

5. 2 大和川水系河川整備計画布留飛鳥圏域の変更について

- ・逆流防止樋門について、逆流はどのような時にどのような形で発生するのか、また、樋門はどの位置に整備し、どのように運用することで、どれだけの被害軽減効果が得られるのか、示してほしい。

- ・新川の川幅を広げ河床を掘削するということが、新川だけを取り上げるのではなく、飛鳥川で遊水池を整備して水位を下げるなど、平行して飛鳥川の問題も考えていく必要があるのではないか。

→飛鳥川では、現在、下流の大和川本川の河床高を考慮しながら、河床掘削の工事を行っているところである。

一方、遊水地については、飛鳥川は流域面積が大きいので、相当大きな遊水地を整備しないと新川には効果が得られないと考えている。

- ・新川は、都市排水の受け皿の形態を負っている河川であると思うが、新川放水路がなぜここにあり、その効果がどこにあるのかが見えない。新川が河川の体を成しているのは、伴堂川流入後ぐらいで、その上流は排水路網の形態なのか。また、土地利用の観点からは、農業用水路がある地区に後に人家が連担するようになり、その流出等を抱え込む形で、この川が構成されているということなのか。

→新川に限らず、大和川の2次支川、3次支川では、農業用水の水路のようなところが一級河川に指定されているところが多い。土地利用については、都市下水路の上流部は最近の開発であるが、筋違道沿いはかなり古くから民家があったことが推測される。新川の放水路が出来た背景としても、この旧市街部の浸水被害解消のため、とりあえず先に飛鳥川に放水するために放水路が整備され、後からスプロール的に開発が進み、浸水被害が発生するようになったと推測される。

- ・寺川と飛鳥川に挟まれた地域は、全て寺川から水が引かれ、その余り水が飛鳥川に放流されていることから、新川の水路が複雑なのは用水の関係からと考えられる。そこに最近の住宅開発による生活排水が流れ込んで問題が発生している。これは奈良県下のどこにでも起こりうることと思われる。
- ・大和川では、広瀬神社付近から上流では小河川が多く合流しているが、合流点を見ると、堤防の高さが全部違っている。各合流点付近の堤防の高さや水位等について教えてほしい。
- ・樋門の効果は、大和川水系でも事例があり、その効果が確認されているのか。また、樋門は普段は開いているが誰が閉めるのか。
 - 大和川の主要な一次支川規模の河川ではバック堤方式であるが、飛鳥川の支川等小規模の河川では樋門を設置している。新川の樋門については、設置の有無について比較検討した結果、設置した方が被害が軽減できる結果が出ている。樋門の操作は、地域の実情を一番知っていただける方に操作をお願いしている。開閉のタイミングは、本川と支川で水位が逆転した時点で閉め、逆に本川水位が下がって支川の水位が高くなった時点で開けるという操作を行っている。
- ・河道改修に比べて、遊水地方式の設置面積がかなり大きいのが、なぜこれだけの用地が必要なのか教えてほしい。
 - 河道の現況流下能力が $13\text{m}^3/\text{s}$ に対し、 $1/10$ 確率の降雨による洪水は $25\text{m}^3/\text{s}$ であるため、 $13\text{m}^3/\text{s}$ 以上の $12\text{m}^3/\text{s}$ 分の洪水はすべて貯留する必要がある。これを容量に換算すると $32,000\text{m}^3$ となり、水深 3m 程度と考えると 1.1ha 程度の用地が必要となる。
- ・今の遊水地は、住宅の密集地に近い所であり、どうかと思う。遊水地について、あの場所が果たして一番いい場所なのか。幾つかの候補を上げ、比較検討のデータを示してほしい。
- ・新川を河川整備計画に位置づけることについては、各委員ご同意いただいているが、各委員の質問に対する補足、補強が必要なため、再度委員会を開催することとする。

以上